

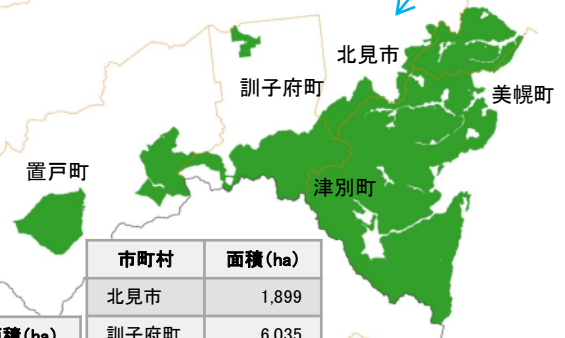


北海道有林野 整備管理計画（網走東部管理区）の概要



管理区の概要

- ・当管理区は、オホーツク海から南西約40km内陸の網走川、常呂川に挟まれた丘陵地の5市町に位置し、森林、河川、湖沼、海が連関した豊かな自然環境の下にあります。
- ・森林の特色は、保護林として指定されている置戸のアカエゾマツ天然林、津別のミズナラ林のほか、多様な樹種から構成される針広混交天然林などがあります。
- ・森林面積は約42千ha、その大部分がトドマツ、エゾマツ、シナノキ、ミズナラ、ヤチダモなどを主体とした針広混交の天然林です。
- 人工林面積は約15.1千haで、約5割がトドマツ、約3割がカラマツ類、約2割がエゾマツ類となっており、その他はヨーロッパトウヒなど外国産樹種や広葉樹で、ごく僅かとなっています。

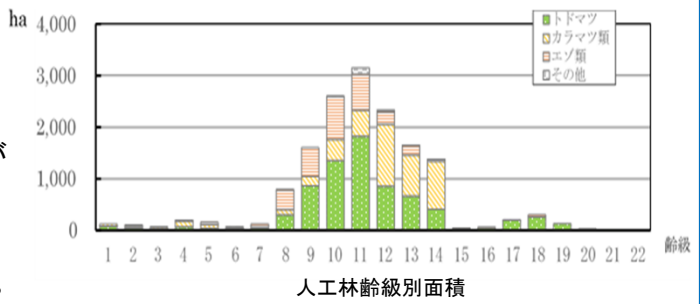


市町村	面積 (ha)
北見市	1,899
訓子府町	6,035
置戸町	5,115
津別町	24,764
管理区計	41,860



多様で先導的な森林づくりに係る取組

- ・当管理区の森林整備については、道民の関心が高い水源涵養、山地災害防止の機能を増進させることを前提とし、適切な整備・管理による良質な水資源の供給、土砂や流木の流出防止を図ります。
- ・人工林は、トドマツを始めとした資源が充実期を迎えているため、成績が良好で路網も整備されているなど、効率的な施業が可能な区域では、主伐、再造林を集約的に展開します。
- ・天然林は、造材技術について、能力の継承と向上を図るとともに、ICTの導入などにも取り組みながら、適切な資源管理のもと間伐を行うことで、多様な木材資源を持続的に供給します。



○目標の指標

【育成単層林・育成複層林・天然生林別面積(単位:ha)】
 区分に応じた適切な整備や保全の実施により、多様な樹種や林齢からなる森林の育成を目指します。

区分	令和元年度	令和13年度
育成単層林	11,601	10,887
育成複層林	13,242	13,956
天然生林	17,017	17,017

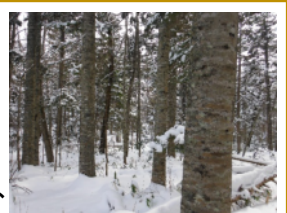
○計画量

【伐採材積】 (単位:千m ³)			【更新面積】 (単位:ha)			【路網開設】 (単位:km)		
区分	前期	後期	区分	前期	後期	区分	前期	後期
主伐	111.9	113.1	人工造林	305 (896)	319 (1,006)	林道	4.0	6.5
間伐	242.0	233.0	天然更新	0 (0)	0 (0)	林業専用道	1.9	6.0

※括弧内の数値は区域面積

資源や技術力を活用した地域貢献に係る取組

- ・緩傾斜の人工林伐採跡地において、機械地拵えを実施する造林作業の実証・普及等を進めます。
- ・植栽適期が長く作業も容易なコンテナ苗の活用やUAVによる苗木運搬の試行、列状間伐の推進により、森林施業の低コスト化・省力化を図ります。
- ・植栽に必要な林業用種苗の安定的生産に資するため、道有林採種園の整備を進めます。また、優良品種選別のために造成した次代検定林の保育や成績調査を行います。
- ・高性能機械の導入や雇用の確保に取り組む地域の林業事業者を育成するため、適正な計画の下、安定的に事業を発注するほか、協定の締結などで複数年にわたる造林や保育、伐採作業などが実施されるよう取り組みます。
- ・地域の事業者から材の安定供給や高付加価値化などを目的とした提案を受けた場合は、内容について審査の上、協定販売を実施します。
- ・森林認証材の安定的な供給と地域材としてのブランド化に向けて、CoC 認証事業者に限定した入札(立木販売)を行います。
- ・天然林間伐地における樹種・品位判定、伐木選定などの実務的研修を始め、生物多様性保全の森林モニタリング調査、固定生長量測定地調査、河川水濁度調査など、森林環境全般に関する業務を通じて、人材の育成を図ります。
- ・学生などの教育学習、木育マイスターなどによる森林体験、市民団体による森林ボランティア活動フィールドを提供します。



天然林間伐計画地

○目標の指標

【森林づくりに伴い産出される木材の量】
 道民生活に木材・木製品の利用が定着し、道有林の森林づくりに伴い産出される木材が有効に活用されることを目指します。

